

8章 環太平洋大学協会 (Association of Pacific Rim University : APRU) による域内教育協力フレームワーク

1. 当該フレームワークの成立過程・略史・目的・理念

環太平洋大学協会 (Association of Pacific Rim University、以下 APRU) は、1997 年に設立された、アジア太平洋地域をリードする 42 の研究大学によるコンソーシアムである。その目的は、「教育、研究と産業における協力を推進することによって、アジア太平洋地域における経済・科学と文化の進歩に貢献すること」にある。

APRU は、1997 年にロサンゼルスにおいて、南カリフォルニア大学を中心とする大学の学長たちによって設立された。設立以来、トップクラスの研究大学相互の協力関係を構築するために、様々なプロジェクトを実施してきた。主なプロジェクトは、若手教員と博士課程の院生を対象としている。

以下は、2009 年 2 月 23 日に実施した APRU 事務局のダイレクター兼 APRU 運営委員会の会計担当である Margaret Leong 氏と、プロジェクト・マネージャーを務める Jacquelline Heng 氏とのインタビューをもとに構成した。インタビューの詳細については末尾に記している。

2. 参加国・参加機関

メンバーシップを持つ大学は、アジア太平洋地域 16 カ国から 42 大学に上る。日本からは、慶應大学、京都大学、大阪大学、東北大学、東京大学、早稲田大学が参加している (アルファベット順)。これらの大学は、国際的で各国を代表するトップの研究大学として選定されメンバーシップを付与された。

各大学は、メンバーシップを獲得するために APRU の運営委員会 (steering committee) によって 4 つの観点から審査される。4 つの観点とは、第 1 に、学術的な優秀性 (Academic Excellence)、第 2 に、研究に重点を置いていること (Research Intensity)、第 3 に、国際的な展望 (Global Outlook)、第 4 に、革新的であること (Innovative Dimension) である。運営委員会の 3 分の 2 の賛成を得た後に、メンバーシップを持つ大学の 4 分の 3 以上が賛成することによって、メンバーシップを獲得することができる。審査の過程では、地理的なバランスに配慮されている。

2008年9月22日付けの *APRU NEWS*によると、高麗大学、南京大学、Tecnologico de Monterrey、東北大学、香港大学という5つの大学が新たにメンバーシップを獲得した。ただし、2009年2月現在、メンバーシップの新規募集は行われていない。

3. 組織体制—人員や予算規模—

APRU は、シンガポールの法の下に設立された独立した機関である。主に、運営委員会と事務局の二本柱で運営されている。

2009年2月現在、運営委員会は、慶應大学の塾長安西祐一郎氏のもとに、6大学の学長クラスが集い構成される。運営委員会がリーダーシップを発揮して様々な活動が実施されるが、運営委員会のメンバーの選定に際して、アジア、オーストラリア、ラテンアメリカ、北アメリカという地域的なバランスに配慮されている。

APRU 事務局は、シンガポール国立大学の敷地内に置かれている。オーストラリア出身の Kenneth J. McGillivray 事務局長ほか、主にシンガポール出身者による10人程度の構成である。事務局は、様々なプログラムの実施や各大学との連絡調整にあたっている。

私見では、アジア版エラスムス計画との協力を検討する際に、アジア太平洋地域のハブとも言えるシンガポール国立大学に事務局を構えていることは少なからずメリットであると言える。加えて、シンガポール国立大学の国際部と同じ建物内に事務局があるとともに、シンガポール国立大学でも、APRU の活動を積極的に広報し支援していることは特筆に値する。

4. 現在の活動全体の概略と将来展望

(1) 定例会議 (Annual Meetings)

APRU 最大の活動として、毎年学長クラスの会合 (Annual Presidential Meeting) が挙げられる。毎年、APRU の運営に直接関わるテーマだけでなく、高等教育関連のテーマについて議論している。学長クラス会合での話し合いをもとにして立ち上げられたプロジェクトの内、APRU World Institute (以下、AWI) は「成功したプロジェクトの一つ」と事務局に評価されている。

APRU 事務局担当者とのインタビューによると、「APRU の規模は必ずしも大きくはないが、学長クラスの会合が定期的実施されている点が特徴と言える。この会合によって、42大学の学長が個人的に協力関係を結ぶことができ、大学の意思決定に大きな役割を果た

すことができる」として、その強みが強調される。

また、シニア・スタッフ会合(Senior Staff Meeting)も毎年開催される。シニア・スタッフ会合では APRU が実施するプログラムやイニシアティブについて議論される。その会合で議論された主要な点は、上述した学長クラスの会合でも議題として挙げられる。ワーキング・グループが設けられ、特定の課題についてさらに深く議論することもある。

(2) 戦略的イニシアティブ (Strategic Initiatives)

APRU は、戦略的なイニシアティブのもとに、産学連携や近年重要視されるトピックについての研究を促進している。

2006 年に設立された AWI はその一つである。AWI を拠点として、メンバー大学から、著名な研究者、政策アドバイザーや企業の取締役などを募り、地域的かつグローバルな問題について議論するためのワークショップを設けている。これまで議論されたテーマには、気候変動、パブリック・ヘルス、経済統合などが挙げられる。

また、APRU は、同様の趣旨の下で、研究プロジェクトも立ち上げている。その一例として、PECC-APRU Study on “The Asia Pacific Education Market”が挙げられる。この研究プロジェクトは、太平洋経済協力会議 (Pacific Economic Cooperation Council: PECC) とのジェイント・プログラムで、2009 年まで継続する予定である。

(3) ネットワーク・コラボレーション (Network Collaboration)

大学の教員や職員を対象として、各大学のネットワーク化を目的とする活動も実施される。まず、2000 年から、教育や研究上のインターネット技術を向上させることを主な目的として、遠隔教育とインターネット会議 (Distance Learning and the Internet:DLI) が実施されている。インターネット会議を通じて、アジア太平洋地域において、国際的な遠隔教育のプロジェクトやパートナーシップを構築することを目指している。

次に、Chief Information Officers(以下 CIO)会議や、Deans Meeting も行われる。前者は、メンバー大学内の主たる IT 担当スタッフによる会議であり、よりよい技術や実践を開発するとともに、多国間のパートナーシップを築くことを目的とする。後者は、教育、研究とアウトリーチ活動の向上に加えて、卒業生のネットワークやキャリアサービスなどの分野における実践開発に重点が置かれる。パイロット会議として、ビジネス学部と教育学部の学部長が集まる予定である。

さらに、研究者を対象とする APRU 研究シンポジウム (APRU Research Symposiums) も開催されている。取り上げられたテーマは、脳と心 (Brain and Mind)、地質学と地震学 (geology and earthquake studies)、デジタル図書館 (digital libraries) などである。

(4) 国際的プログラム (International Programs)

①博士課程学生会議 (Doctoral Students Conference)

上述したプログラムのほとんどは、メンバー大学の学長、教員やスタッフを対象としていたが、学生を対象とするプログラムも実施している。博士課程学生会議がその一つである。

博士課程学生会議では、メンバーシップを持つ大学の博士課程に在学する院生 2 名が選出され 2 週間程度対象大学に滞在する機会を得る。参加に要する費用については、 гранトとして APRU が負担する。たとえば、復旦大学がホストとして教育内容やスタッフを提供し、過去 3 年間博士課程学生会議を開催してきた。2009 年から 2010 年には、シンガポール国立大学がホストを務める予定である。なお、ホストの選定に当たっては、希望する大学が企画案を提出した後に選定される。

博士課程学生会議での活動に対して、復旦大学では 2 単位を供与してきた。APRU 事務局担当者によると、「各国で教育システムが、各大学でカリキュラムが異なるので、単位を標準化することが難しい」ため、現状では会議の活動の単位化については検討していないそうである。

②学部生サマー・プログラム (APRU Undergraduate Summer Program)

APRU は、学部生サマー・プログラム (APRU Undergraduate Summer Program) も実施してきた。サマー・プログラムは、メンバー大学間で学生同士の移動を促進することを目的とする短期プログラムである。サマー・プログラムでは、ホストとなる国において固有の問題をテーマとして選び、主にセミナーやフィールド学習、文化交流を行っている。

事務局担当者によると、「2007 年にサマー・プログラムを実施した際、アメリカからは 11 人、オーストラリアからは 2 人、アジア各国から 31 人が参加した。夏が異なるため、オーストラリアからの参加は少ない。プログラムを実施する時期によって参加国が異なってしまう」点は、各種プログラムを実施する上で示唆に富む。

③フェローズプログラム (Fellows Program)

APRU の活動は、若手研究者のネットワークの構築にも一役買っている。メンバーシップ大学に所属する教員（ポスドク、助教、准教授クラス）が共同で論文を執筆する機会が設けられている。これまで、2つの大学（マラヤ大学とブリティッシュ・コロンビア大学）が協力して、共著論文（collaborative paper）を作成してきた。この論文の著者を選定する際には、地理的なバランスに配慮される。

なお、上述したすべてのイベントを実施する前に、メールを通じてメンバーシップ大学に広報している。

5. 高等教育交流および調和化・国際的質保証に関する近年の動向・活動とその成果・評価・展望

上述したとおり、高等教育交流に寄与する各種プログラムが実施されている。しかしながら、管見の限り、各種プログラムの実施は、ホスト校となる各大学の裁量に任されており APRU として十分な質の維持に努めているとは言い難い。ただし、APRU の事務担当者からは、「学長レベルの議論のもとで各種プログラムを実施しているため、ある程度の質が維持できる」と述べられた。

APRU の活動は、メンバーシップを持つメンバーからの経済的支援によって成り立っているが、財政的規模については公開していない。奨学金については、「現状では、学生に直接供与する奨学金はないが、各種プログラムを実施するホスト大学に対して経済的に支援している。APRU が学生へ奨学金を供与することは複雑すぎてできない。APRU の役割は、ネットワークを構築することがより重要であると考え」と述べた。

このように、プログラムを実施するホスト大学が、財政的にも、人的にも、教育内容・方法においても責任を負うという方式が「APRU モデル」である。事務局担当者から、様々なプログラムの質保証を考察する上で、「他の大学の教員が、ホスト大学の行事に参加することが難しい」点が挙げられた。

6. 「アジア版エラスムス計画」（アジア域内高等教育交流）へのインプリケーションと将来における協力可能性

上述した通り、APRU の活動はアジア太平洋地域を対象としており、アジア地域のみの特化したプログラムは行われていない。しかしながら、地域的なバランスには常に配慮し

ながらプログラムを実施していると言え、次の3つの点で「アジア版エラスムス計画」を構築する上で示唆に富むと思われる。

第1に、拠点事務所の移転である。2002年から、設立以来南カリフォルニアに置かれていた事務局が、シンガポールに移転したことは、「アジア版エラスムス計画」との協力可能性を模索する上で重要である。事務所移転の背景には、「シンガポールが東西のネットワークのハブであり、アジア太平洋地域を見回す上で物理的によい場所であること」が挙げられる。事務局担当者とのインタビューにおいて、「すべての大学に対するサービスを提供している」点や「地域的なバランスに配慮している点」がしばしば強調された。

第2に、APRUの活動の特徴として、「多岐にわたる」ことや「アジア太平洋地域のさまざまな大学、しかもトップレベルの教員を呼ぶことができるということ」が挙げられる。

第3に、既に、学長、教員、スタッフとの協力関係が築かれていることから、学生間の交流に対して協力することが容易である。ただし、コストの問題により、長期間にわたるコースやプログラムを実施することは難しい。

このような点を踏まえて、事務担当者のアジア地域内高等教育交流に対する意見として、「質保証（カリキュラムなど）の問題がEUでも起こっているが、アジアでは大学によってカリキュラムや言語が異なることは課題として挙げられる。また、EUは政治・経済の統合が進んでいるが、アジアでの統合は難しいのではないか」という意見が挙げられた。

しかしながら、英語で行われる短期間の学生交流とはいえ、遠隔教育やインターネットを活用しながら地理的な距離乗り越えようと様々な試みを挑戦してきたAPRUの活動は今後も注目に値する。

【参考資料】

APRU(2004), *Technology Spin-offs from Pacific Rim Universities: Entrepreneurial Context and Economic Impact*, A study based on the “Technology Transfer and Wealth Creation” research project of the Association of Pacific Rim Universities.

ARPU (2005), *A Tale of Three Cities: Globalization's Impact of Air Environment in Santiago, Water Environment in Osaka, and Soil Environment in Shanghai*, A collaborative research paper based on the 2004 APRU Fellows Program “Globalization and the Environment: Multidisciplinary Perspectives”.

APRU(2008),*ARRU: Bridging the Pacific Rim Community through Education, Research and Enterprise.*

【参考ウェブサイト】

APRU <http://www.apru.org/>

インタビューの概要

日時：2009年2月23日 11:30-12:30

対象者：Ms. Margaret Leong, Director, APRU Secretariat.

Ms. Jacqueline Heng, Program Manager, APRU Secretariat.